

2018年9月期 通期 決算補足説明資料

.....

株式会社フィックスターズ
(東証一部3687)

2018年11月7日



本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があります。あることをご承知おきください。

目次

1. 2018年9月期 通期決算説明
2. 2019年9月期 通期業績予想

目次

1. 2018年9月期 通期決算説明
2. 2019年9月期 通期業績予想

2018年9月期 通期 決算発表サマリ

■ 全体

■ 業績予想を上回り過去最高売上高、利益を達成

- 売上高： **5,275百万円**（前期比 **+18.5%**）
- 営業利益： **1,100百万円**（前期比 **+31.8%**）

■ ソフトウェア・サービスが対前期比で大きく拡大

■ セグメント

■ ソフトウェア・サービス

- 自動運転関連を中心に高速化事業が安定成長
- エンジニア採用が進みプロジェクト規模が拡大
- 量子コンピューティング事業では、NEDOの採択を受け共通ソフトウェア基盤の開発に着手

■ ハードウェア基盤

- 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- 画像処理向けストレージ・サーバ等のスポット案件が大きく業績貢献

決算概要：損益計算書

- 業績予想を上回り過去最高売上高、利益を達成
- ソフトウェア・サービスが対前期比で大きく拡大

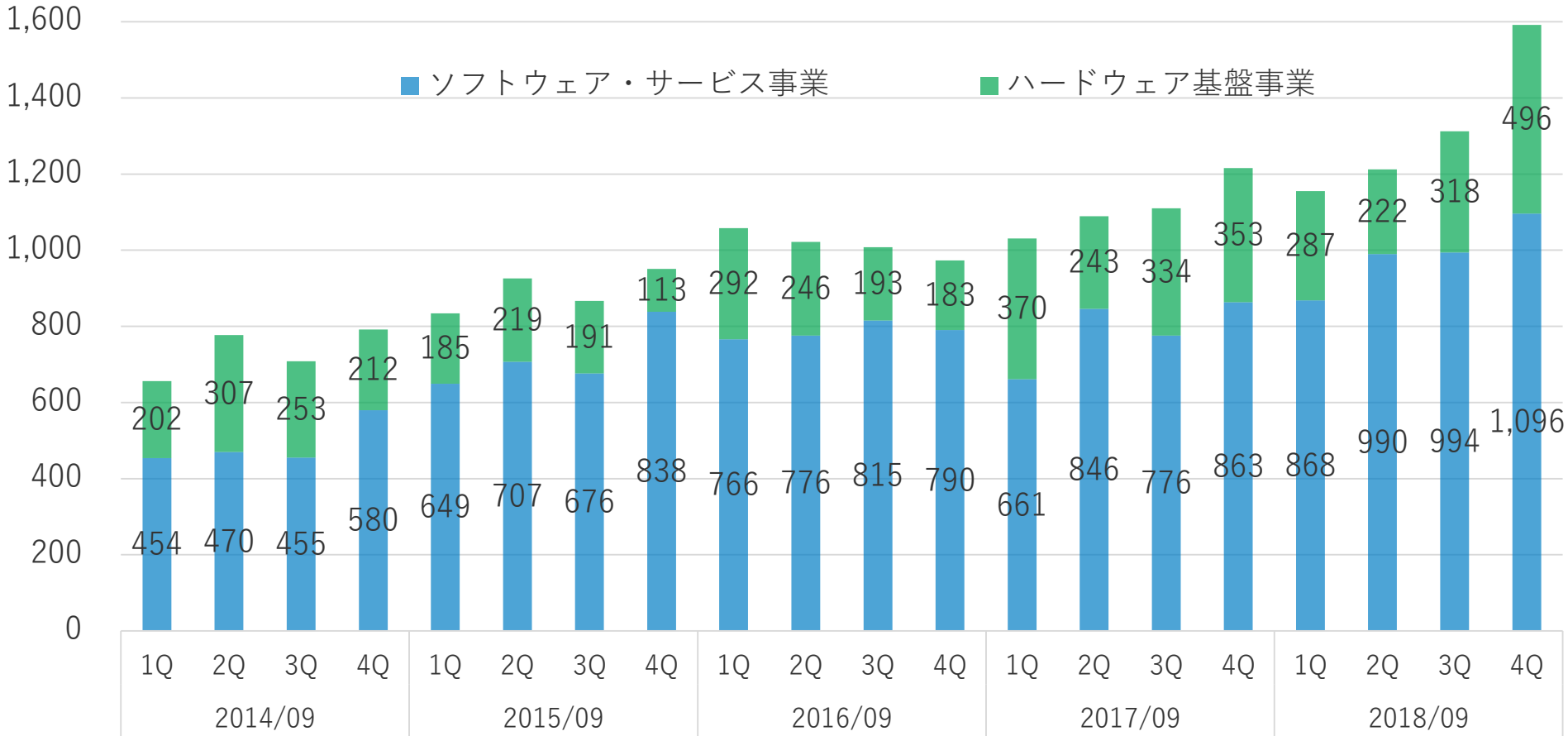
(単位：百万円)

| 項目 | 前期 | 当期 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率 | 上方修正後 業績予想 |
|---------------------|-------|-------|------------|------------|---------------|
| 売上高 | 4,450 | 5,275 | +824 | +18.5% | 5,000 |
| 営業利益 | 835 | 1,100 | +265 | +31.8% | 1,000 |
| 売上高 営業利益率 | 18.8% | 20.9% | +2.1pt | - | 20.0% |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 557 | 823 | +265 | +47.6% | 720 |
| 売上高 当期純利益率 | 12.5% | 15.6% | +3.1pt | - | 14.4% |

業績：売上高

■ ソフトウェア・サービス事業の規模拡大に加え、ハードウェア基盤事業のスポット案件により過去最高の四半期売上高を更新

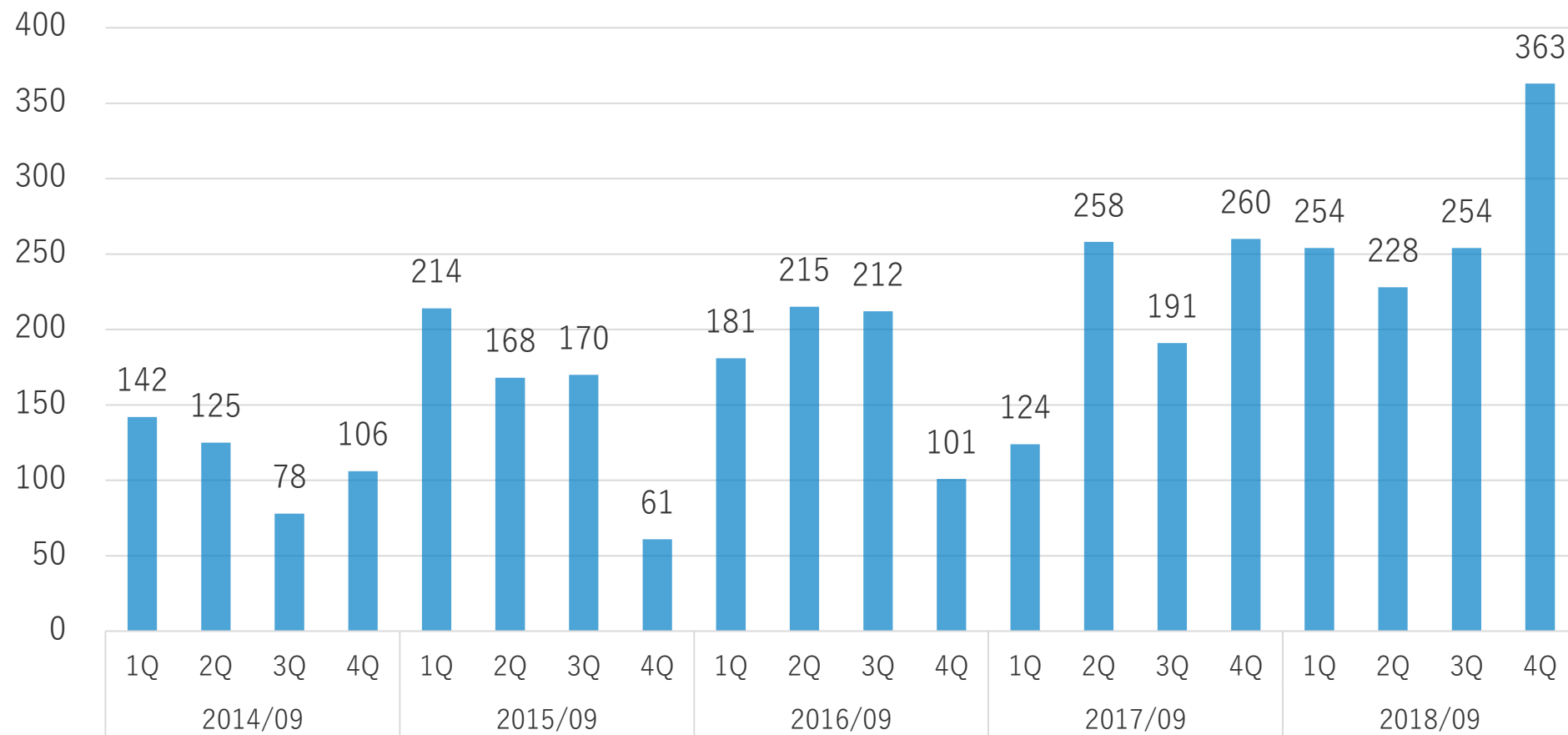
(単位：百万円)



業績：営業利益

- 売上増に伴い営業利益も大幅に伸長
- 過去最高の四半期営業利益を達成

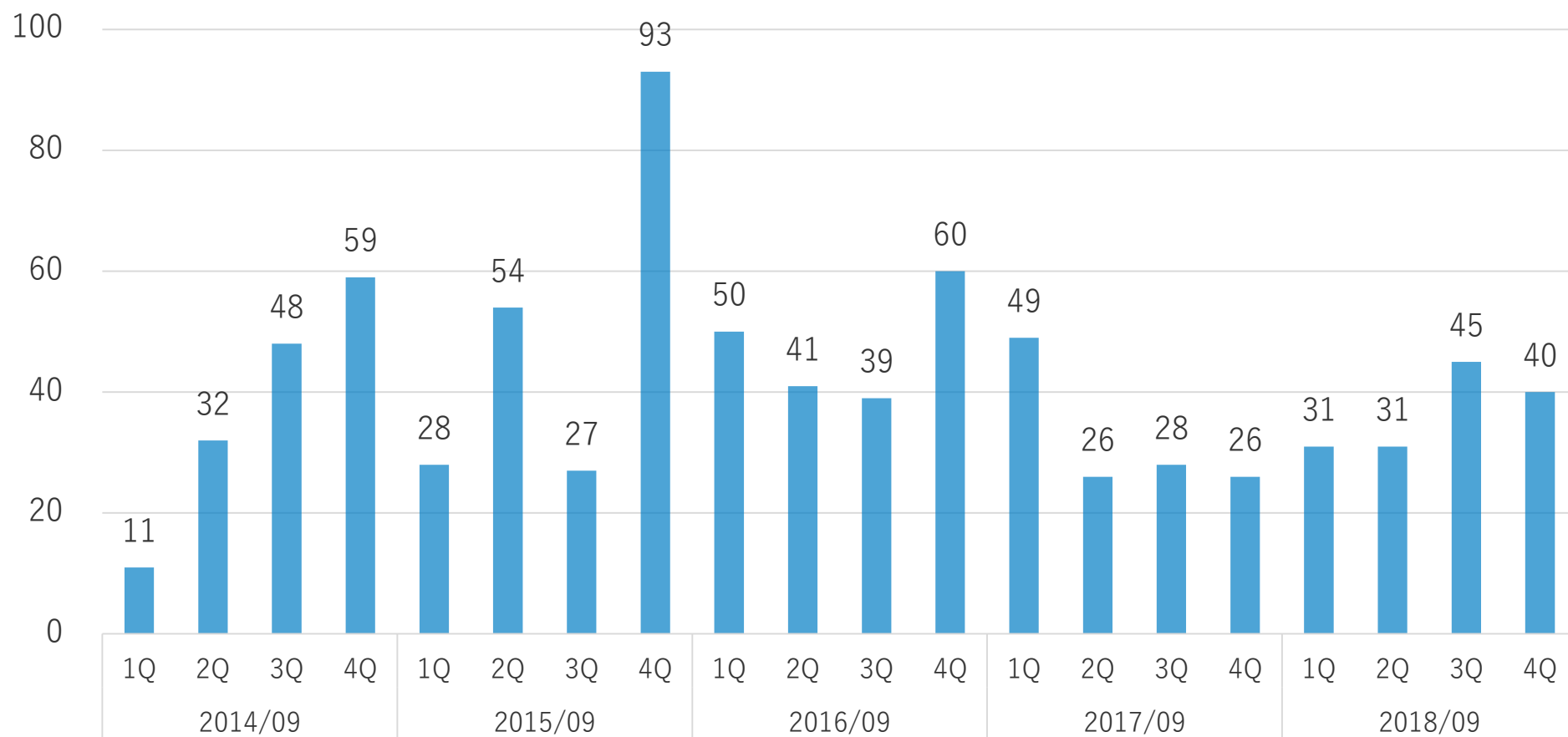
(単位：百万円)



業績：研究開発費

- 引き続きソフトウェア関連の研究開発を継続
- 人件費や外注費を安定的に計上し、予算通り着地

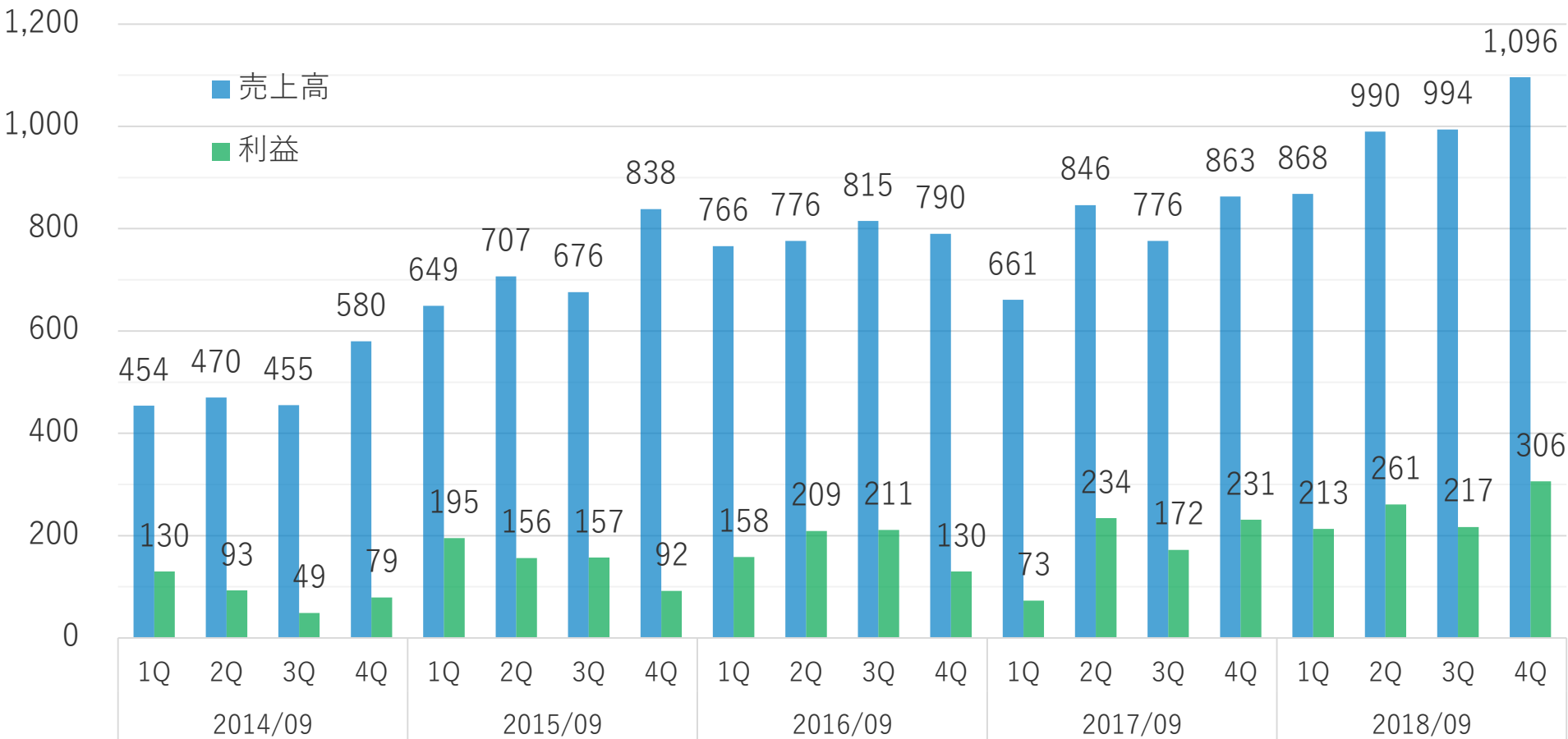
(単位：百万円)



業績：ソフトウェア・サービス事業

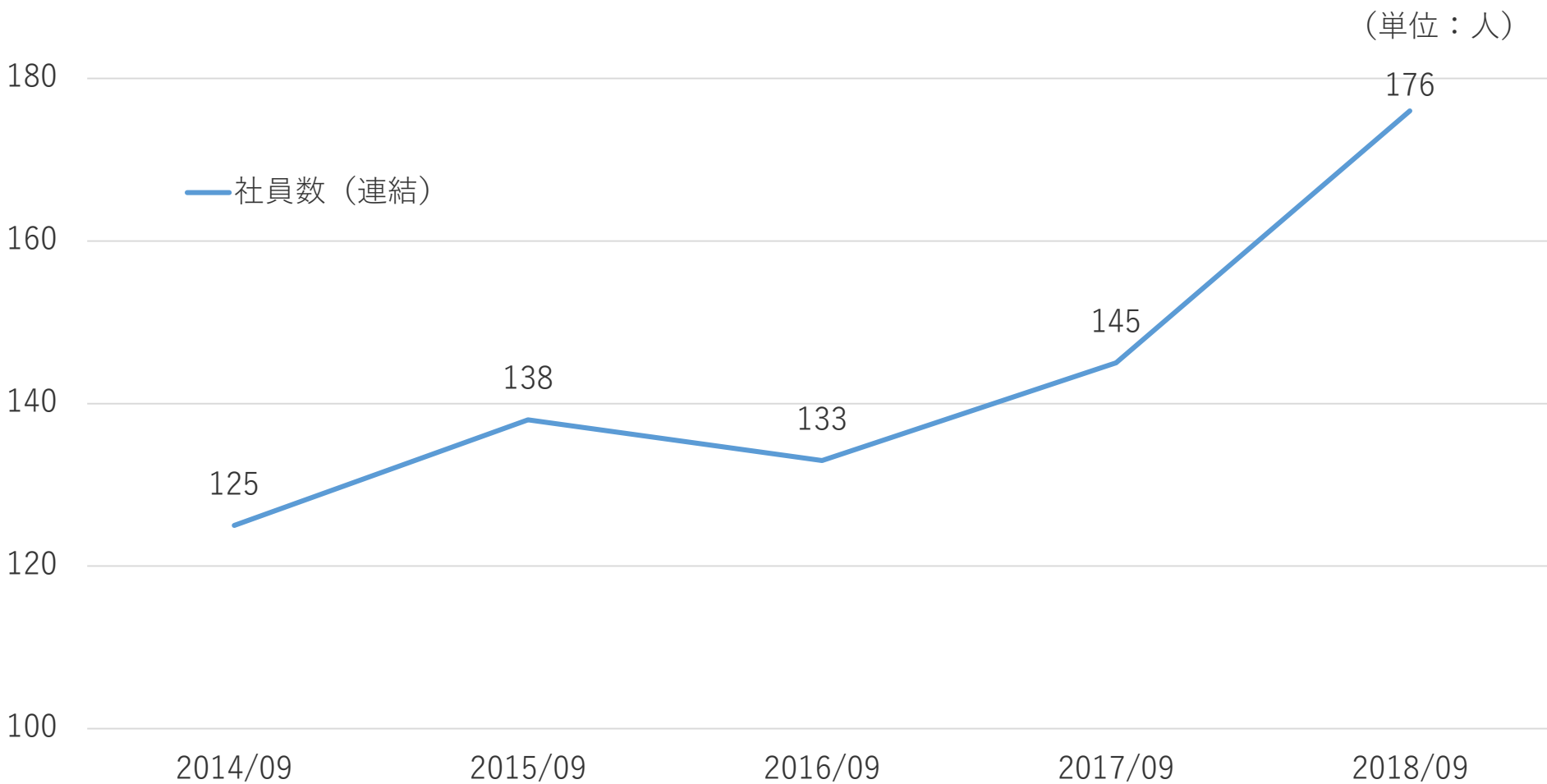
- プロジェクト規模拡大を反映し過去最高の四半期売上高を更新
- 自動運転を中心にソフトウェア開発・高速化サービスが安定成長

(単位：百万円)



業績：社員数推移

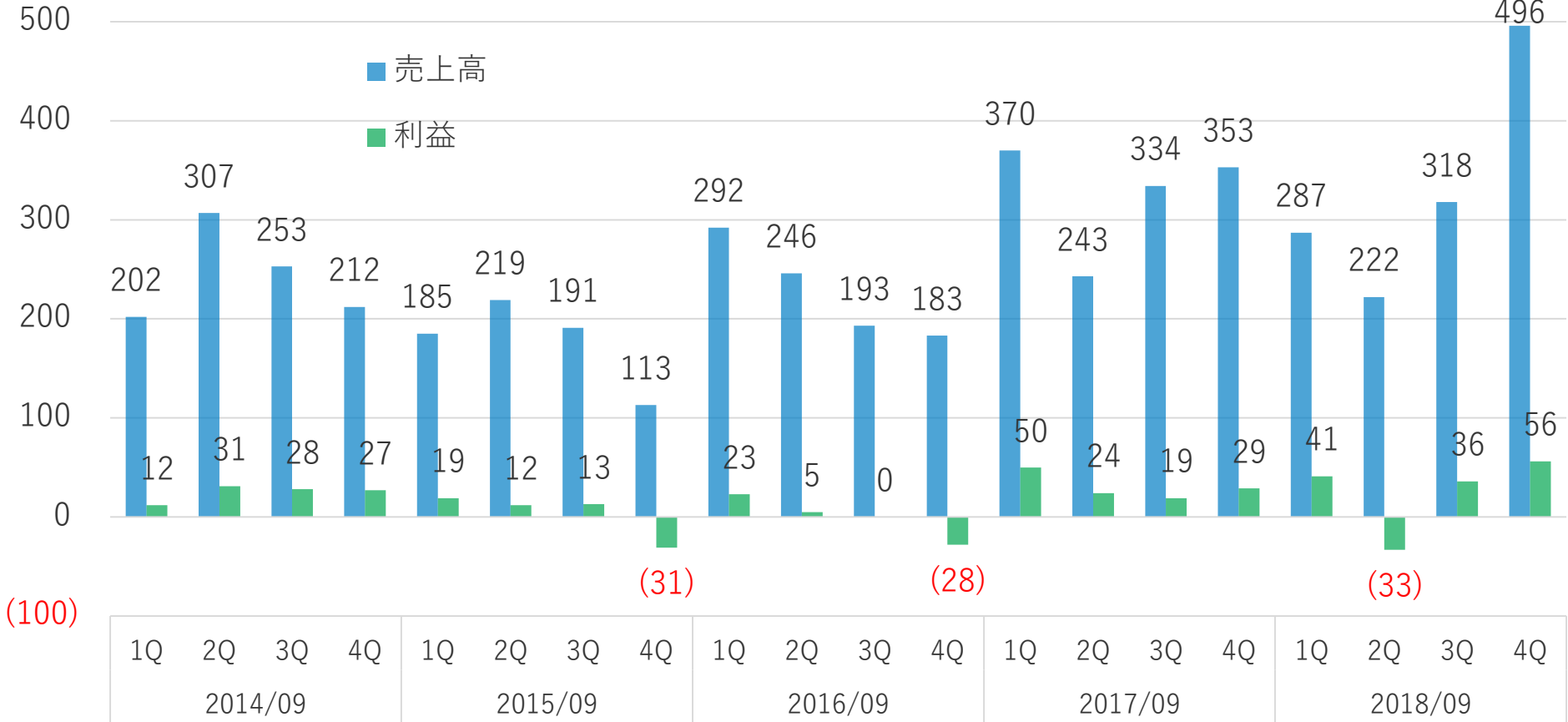
- 採用市場の競争が激化するなか、採用活動に多くのリソースを割いた結果、新卒を中心にエンジニア採用が好転



業績：ハードウェア基盤事業

- 画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定して収益貢献
- 画像処理向けストレージ・サーバ等のスポット案件を計上し、四半期売上高が大幅増

(単位：百万円)



トピック：自動運転子会社

- ネクスティエレクトロニクス社とのJVを設立。完成車メーカーを中心に自動運転のソフトウェア開発・高速化を提供
- 顧客の開発フェーズに合わせ、アルゴリズム開発や実機環境への移植等、幅広くソリューションを提供

強み

・マルチコアやアクセラレータを活用した高速化技術

・国内外の強固な顧客ネットワーク
 ・プロジェクトマネジメント力
 NEXT Electronics

提供ソリューション

アルゴリズム開発

- ・機械学習によるオブジェクト検出
- ・カメラキャリブレーション
- ・ステレオカメラ距離推定
- ・自己位置推定及び環境地図作成

アルゴリズムの移植、高速化

- ・組込み環境への各種アルゴリズムの移植
- ・ターゲットとなるハードウェアに合わせた高速化

自動運転認識フレームワークの開発

- ・OS層の抽象化、メモリ管理、スケジュール管理、データ同期等

トピック：量子コンピューティング事業

- 産官学それぞれのキープレイヤーとの関係を構築し、業界内でのユニークなポジショニングを確立
- NEDOに採択され共通ソフトウェア基盤の開発に着手



政府機関等

- ・「イジングマシン共通ソフトウェア基盤の研究開発」がNEDOの研究開発プロジェクトに採択
- ・IPA「未踏ターゲット」のテクニカルアドバイザーに就任



研究機関

- ・ NEDOプロジェクトに早稲田大、東工大、NII、産総研と共に参画
- ・ 早稲田大学と共同研究を継続
- ・ 東北大向けセミナーや学生の受入を実施



企業

- ・ NEDOプロジェクトに豊田通商と共に参画
- ・ D-Wave、富士通、日立製作所等アニーリングマシンベンダとの関係構築
- ・ 量子コンピュータを検討する国内大企業から多くの引き合い

目次

1. 2018年9月期 通期決算説明
2. 2019年9月期 通期業績予想

2019年9月期 通期業績予想サマリ

■ 全体

- 売上高、営業利益ともに過去最高も、非支配株主に帰属する利益と税負担率の増加により最終利益では減益予想
 - 売上高： **6,000百万円**（前期比 **+13.7%**）
 - 営業利益： **1,173百万円**（前期比 **+6.6%**）
 - 親会社株主に帰属する当期純利益： **785百万円**（前期比 **▲ 4.6%**）

■ セグメント

■ ソフトウェア・サービス

- 自動運転関連を中心に既存事業による安定成長を実現
- 新規事業に積極投資し、**SaaS**等の新しい収益モデル構築を目指す
- 補助金を活用し、量子コンピュータ事業等の更なるシーズに投資

■ ハードウェア基盤

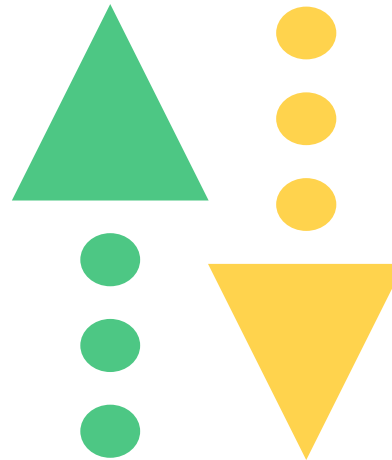
- 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- ソフトウェア開発と組み合わせたトータルソリューションを通じて、スポット案件を積極的に獲得

2019年9月期 通期業績予想：費用配分の方針

- 長期的な成長に向け、既存事業拡大による利益増加分を優秀な人材の確保と新規事業の育成に積極的に配分

利益増

- ☑ 需要増大と陣容拡大を背景に、ソフトウェア開発・高速化サービスが順調に収益拡大
- ☑ 画像処理プロセッサ搭載演算ボードの安定納入が、業績底上げに寄与
- ☑ ハードウェアのスポット案件が更なる収益拡大に寄与



費用増

- ☑ 更なる事業拡大のため、報酬制度の拡充によるエンジニア採用の加速や、経営層人材の新規採用を実施
- ☑ **SaaS**等の新たな収益モデル確立を目指し、新規事業へ積極投資
- ☑ 人員の急拡大に伴い、本社オフィスの増床を検討

2019年9月期 通期業績予想：既存事業の拡大

- 社会に大きな変革をもたらす各アプリケーションを対象に、高速化ソリューションを提供
- 需要増大と陣容拡大を背景に安定して業績貢献

| | | | | | |
|--|--|---|---|---|--|
|  | フラッシュストレージ モバイル データセンタ |  | HPC 大規模シミュレーション |  | ファイナンス デリバティブ HFT |
| 自動運転 自動車 その他モビリティ |  | 産業機器 Industry4.0 自動画像検査 |  | ヘルスケア MRI/CT 自動画像診断 バイオインフォ |  |

2019年9月期 通期業績予想：人材への積極投資

- 報酬制度を拡充しエンジニア採用をさらに加速
- 新規事業等の新たな事業展開のため経営層人材を新規採用



初任給アップ

- ☑ 修士初任給を408万円から504万円に増やす等、新卒初任給を大幅増額
- ☑ 修士の増額に合わせ、学士、博士の初任給も増額
- ☑ 新卒初任給増額に伴い、既存社員の給与ボトムもアップ



持株会奨励金アップ

- ☑ 当社グループ従業員を対象とした持株会の奨励金を大幅拡充
- ☑ 従業員拠出額と同額の奨励金を会社から支援
- ☑ 従業員の株式保有を促し、経営への参画意識向上を意図



経営層人材採用

- ☑ 今後の事業展開を鑑み、経営層人材を外部より採用
- ☑ 人事責任者やマーケティング責任者を採用し、新規事業等の事業推進を加速

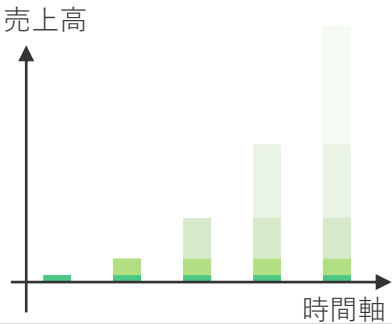
2019年9月期 通期業績予想：新規事業への投資

- より高い成長性を実現するため、SaaS型事業を推進
- 研究開発費やマーケティング費等の費用が先行

 AIによるソフトウェア開発マネジメントサービスをSaaSで提供

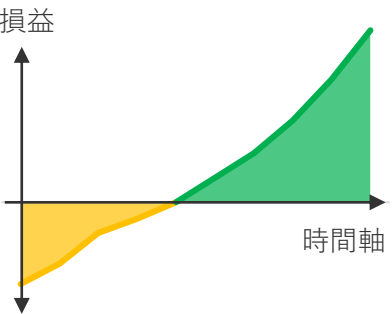
- ☑ ソースコードや開発コメント等のソフトウェア開発履歴からAIが学習し、プロジェクト推進をサポートするサービスをSaaSで提供予定
- ☑ パートナーシップ契約を結ぶSHIFT社の、品質保証における知見や営業網を活用

時間と共に売上の増加するストック型ビジネス



- ☑ 利用が続く限り売上が繰り返し発生
- ☑ 継続顧客分に新規顧客分が加わり、積上げ式に売上が増加
- ☑ 顧客離脱率を押さえ継続して利用してもらえるかがカギ

費用が先行するも中長期では高利益率



- ☑ 事業拡大のため当初はR&D費やマーケティング費が大きく必要に
- ☑ 顧客数が増え損益分岐点を超えるまでは費用が先行
- ☑ 損益分岐点を超える売上規模を達成した後は、高利益率を実現

2019年9月期 通期業績予想

2019年9月期 業績予想

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 |
|---------------|---------|--------|--------|-------------------------|
| 2019年9月期 業績予想 | 6,000 | 1,173 | 1,172 | 785 |
| 2018年9月期 実績 | 5,275 | 1,100 | 1,113 | 823 |
| 増減率 | + 13.7% | + 6.6% | + 5.3% | ▲4.6% |

配当予想

| | 1株当たり 年間配当金 | 1株当たり 当期純利益 | 配当性向 |
|-------------|----------------|----------------|-------|
| 2019年9月期 予想 | 7円 | 23円68銭 | 29.6% |
| 2018年9月期 実績 | 7円 | 24円82銭 | 28.2% |
| 2017年9月期 実績 | 25円 | 16円65銭 | 29.7% |

※当社は2018年4月1日付で、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益金額については、2017年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

※ 2018年9月期及び2019年9月期の配当金額は、分割後の株式数で算出しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の配当金額は、それぞれ35円であります。